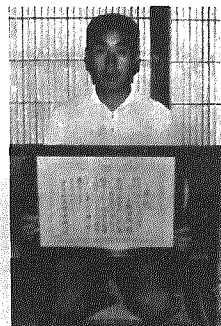




▲団体の部優勝の和納6区チームの皆さん



▲個人の部優勝の小林さん

【個人の部】 (敬称略)

順位	氏名(部落)	記録(kg)
1	小林 恒夫(和6)	684
2	山田 勝英(西中)	633
3	草野 伸一(栄)	623
4	成田 秀一(横曾根)	607
5	相沢征支郎(和2)	600
6	伊藤 初男(和3)	598
6	本間 秀基(西中)	598
8	横田 三雄(和6)	596
9	山上 力(夏井)	594
10	会田 明(和2)	593
10	山田 隆(西中)	593
12	阿部 実(夏井)	591
12	樋浦 均(高橋)	591
14	宮島 秀一(原)	590
15	大平 征夫(西中)	589
16	山田 乾二(和6)	588
16	池上 一喜(和6)	588
18	青柳 厚(栄)	587
18	小川 石郎(西船越)	587
18	草野 剛(栄)	587

うまい米づくりを目指して——と先月十三日、うまい米づくり競作会(品種「コシヒカリ」)が行われ、団体の部では和納六区(記録「六〇〇キ」)が二年連続優勝。個人の部では和納六区の小林恒夫さん(記録「六八四キ」)が優勝しました。昨年と比べ団体では四キ、個人では十キ増の好成績。今年の出品点数は百二十三点(平均収量「五五五キ」)。上位の成績は次のとおりでした。

うまい米づくり競作会  
(コシヒカリ 10アール当たり)

最高は **684** kg  
<約11.4俵>

【団体の部】 (敬称略)

順位	団体名	氏名	記録(kg)
1	和納6区	小林恒夫・山田乾二・池上一喜 横田三雄・田中勝衛	600
2	西中A	山田 隆・山田 清・山田勝英 大平征夫・杉山重光	581
3	高橋B	鶴巻一男・阿部順一・大関恒男 樋浦 均・佐藤成喜	568
4	栄 B	三富達男・青柳 厚・草野 剛 坂田雄二・青柳米一郎	567
5	栄 A	青柳 佐・吹井義郎・吹井輝雄 藍沢ムツ・難波 保	566
5	夏井A	山岸忠士・山上清門・本間久夫 山上栄一・山上 力	566

※小数点以下は四捨五入しました。

キチンと保険料を納めて  
いないと受けられない……



満二十歳以上の人は、いずれかの年金制度に加入しますが、国民年金制度に加入したあとで、病気やケガのために障害者となった場合には、国民年金法による保険料の納付要件と障害の等級(一級、二級)に該当すれば、その状態に応じた障害年金が二十歳代の若い人でも受けられます。

このように、国民年金に加入してキチンと保険料を納めておけば、老後の生活の安定が保障されることは当然ですが、働き盛りに思わぬ病気やケガがもとで日常生活もままならぬ状態になつた場合にも年金で生活費を補うことができるという安心が得られます。障害年金を受けている間は保険料の免除をうけられることもあります。

気をつけてネ！ 交通事故

先月20日公民館の高齢者学級で開かれた交通安全教室には、百人を超える学級生が参加。寺村交通課長の話や交通安全映画に熱心な学習。



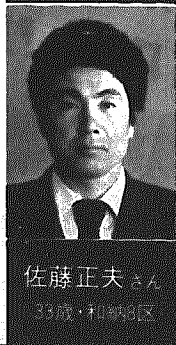
昭和五十九年県農業者友好訪中団(団長・金子副知事一行四十七人)の団員に本村の佐藤正夫さん(和納八区)が選ばれ訪中しました。これは、本県農業を担う中堅指導者と婦

人リーダーを中国に派遣し、体験交流を通じて中国農民の不屈の気概を学び、両国の相互理解と信頼を深め、友好・親善に役立てるほか、地域農業の育成を図るため五十四年度から

実施されています。佐藤さんらは、七月十九日から上海市、ハルビン市、北京市の人民公社などを訪れ、七月二十七日に帰国しました。

# 不屈の気概を学ぶ

訪中をふりかえる——県農業者友好訪中団に参加して



佐藤正夫さん  
33歳・和納八区

飲み込まれてしまいうる大きな大ききと気さくな人々が、不思議な調和をもつて同居している国、「中華人民共和国(以下中国)」はその印象を与えてくれる所です。

滞在中は日本がなつかしく感じられたのに帰って来てみると、中国の臭いが日に日になつかしさを増して、「もう一度行きたい」という気持ちを抱かざる

く起こさせてしまう国でもあります。暮らしぶりや経済事情は日本と比べようもないのに、子どものころに出会ったことがあつたような人と風景がそここにあり、社会主義国家「中国」のイメージとはまた別の、大らかで屈託のない笑顔に触れて、「社会の制度は違つても人間は皆同じだなあ」と、当たり前の事実を実感することができ、また今そのことの確証が大切な収穫のように思えます。中国で知り会えた何人かの友人との、会後の交際が大きな財産として育つていくのだ、という期待もあります。

視察はあまりに多くの見学場所と毎夜の歓迎レセプションで、一つの所をじっくり見ることはできませんでしたが、散歩の途中で自転車修理屋のおじさんと、ホテルでは服務員の若者、そして夜食を食べに行った食堂の酔客た

ちと、いろいろな所で身振り手振りの話が出来たことは、思い出となるばかりでなく自信にもなりました。

若者の多くは日本語や英語を独学していました。とくに「四季の歌」や山口百恵の映画が流行していたり、サングラスをかけた通勤者が増えているのは、ほほえましくもありますが「日本に追いつけ追い越せ」と三交替制で昼夜頑張っている姿に、こちらもやる気を刺激されました。

四つの近代化に「教育」をプラスして「国づくりは人づくり」を実践し、「まだ中国農業は、質より量です」という段階であることを認識して、農業などについては「農業はない訳ではないが、人体と大地への影響を考慮して慎重に扱うのです」と、言い切るその意志に、今の私たちが学び直さなければならぬ大切なものが感じられました。

わたしたちは  
やさしさを集めます



赤い羽根共同募金  
10月1日～12月31日

今月一日から「赤い羽根の共同募金運動」が始まります。

私たちのまわりには、恵まれない生活環境にある人、体の不自由な人、寝たきりやひとり暮らしのお年寄りなど、みなさんの協力を必要とする人たちがたくさんいます。共同募金は、このような人たちがより幸せな生活ができるように、みんなが助け合つて協力する運動です。

岩室村でも例年のように各字の嘱託員の方々に「共同募金運動推進員」に委嘱し、封筒募金の方法で一世帯五百円程度を目標に広く募金をお願いすることになりました。暖かいご協力をお願いします。

健康のチェックしてありますか？

10月10日、16日は  
40歳からの健康週間



▲ハルビン市の道ばたで出会った自転車修理屋のおじさんと(右=佐藤さん)